

さんむのふるさと散歩 NO.35

平成21年度企画展「松尾城」Iでは発掘成果を中心に展示、「松尾城」IIでは絵図を中心に展示しました。11月7日(土)から始まる「松尾城」IIIは市内に遺存している「松尾城」関連資料を展示いたします。

展示する資料をいくつかご紹介いたします。
 一点目は「五榜の高札」の内キリスト教禁止の高札です。高札は旧幕府の民衆支配を継承したものです。



高札

(訳) 定
 一切支丹宗門之儀者
 是迄御制禁之通

堅可守相事
 一邪宗門之儀者堅
 禁止候事

慶応四年三月

太政官

右被仰出候趣支配所
 之輩堅可相守もの也

松尾県

新政府もキリスト教の流布には注意を払っていたことが伺えます。しかし、諸外国からの批判に明治六(一八七三)年に廃止となります。

二点目は題名「単騎用意」と記した巻物(幅一五・長さ三七六・五センチ)です。寛政十一年(二七九六)八月に環齋と言う人物が書いています。「単騎」とは馬に乗る武将ひとり指します。

内容は一人の武将が戦地へ向かうための準備を具体的に絵や文字で表記しています。現在の漫画のようです。

平和な期間が長くなると甲冑を着けない世代もあり、いざ出陣時に困らないための武士のたしなみなのかも知れませぬ。

単騎用意



三点目は釐等具(れいてんぐ)です。厘(三・七・五ミリグラム)まで計れる小型のさおばかりです。主に金銀・葉の計測に使用しました。

釐等具



他に藩主が使用した箸、漬物石等を展示しています。是非ご来館ください。

問 歴史民俗資料館

(82) 2842

さんむ文芸

成東短歌会

法要の帰りの空に亡き人に似たる三ヶ月うるみて見ゆる

長谷川 晃江

見つつ過ぐ友の墓辺に曼珠沙華の群れ咲きをれど赤のさみしき

齊藤 芳江

喜寿の祝を市より贈られ庭前にゆらぎつつ咲くコスモスを見る

行木 芳子

漸くに涼しくなりぬと思ふまに秋雨前線はや停滞とや

藤田 仍子

刈りし田を二十枚へだつ長屋門に群るる彼岸花夕日に染まる

木村 道子

南国風の東屋を残し九十九里の海の家今年の解体終る

成川 澄子

少しづつ親しみて来し迷ひ猫のっしのっしとわが庭をゆく

今関 恵子

ゆく道にきりなく伸びし畦芽の色づくその穂を分けつつ歩む

安井 はる子

朝あさにポウポポッポーと山鳩の汽笛のやうな声に目覚むる

渡辺 幸子

九十九里浜に元禄津波の標ありわれの背を越す高きところに

川島 隆